

## 学 校 評 価 書

学校名 岡山市立岡山後楽館高等学校  
校長 矢 吹 玲 子 印

### 1 自己評価

#### (1) 評価結果の特徴的なもの

- ・生徒向け授業アンケートにおいて、「授業の最初に、本時のめあてや学習内容などが示されていますか」「先生の説明や板書は分かりやすく、自分のためになりますか」「先生は生徒の質問にきちんと対応していますか」「先生は生徒の私語や居眠りなどを注意していますか」「授業に満足していますか(意欲や興味がもてますか)」の項目に対する肯定的な回答の割合が90%を超えた。(無回答を除く)
- ・岡山後楽館に関するアンケート(生徒)の「本校には他校にはない優れた特色がありますか」の項目に対する肯定的な回答の割合が前年度79.6%から本年度86.0%と上昇した。

#### (2) 分析・改善方策

- ・生徒向け授業アンケートの結果は、年間10回以上のICT研修や、教育委員会を招いての研修、共通テーマを持った公開授業の実践などの効果が出たものだと考える。
- ・岡山後楽館に関するアンケートについては、教育課程、学習環境、学校行事、二人担任制の導入など、本校特有の取組に対して肯定的な回答の割合が多かった。

### 2 学校関係者評価

#### (1) 学校関係者評価委員会の実施日とメンバー

実 施 日：令和4年3月2日実施

メンバー：地域関係者、学識経験者、保護者、NPO関係者、元保護者、校長等  
(地域協働学校運営協議会を活用)

#### (2) 自己評価に対する学校関係者評価委員の評価

コロナ禍にあって学校の教育活動を心配していたが、岡山市の教育に関する総合調査の結果などを見ると、生徒が頑張っている様子が伝わってきたので安心した。また、現在岡山後楽館高校で実践している様々なことは継続させるべきであり、その効果はアンケートだけでなく、既に地域住民や小中学生からの評価にも現れてきている。

### 3 来年度の重点取組

※令和4年度教育課程編成表の「指導の重点」と関連付けて記入する。

- ・新学習指導要領で求められる資質能力の育成を目指し、指導と評価を一体化させ、確かな学力を身につける授業を研究する。
- ・地域課題に対する理解と、体験を重視した学習を通して、社会とのかかわりを認識させる。
- ・他者との協働活動を通じて、自他を尊重し、主体的に判断し行動できるように自立した個人を育成する。
- ・岡山後楽館高校の生徒の活動、取組及び教育の成果を、広く地域社会に知ってもらう手法を研究し、本校の魅力を発信する。

令和3年度 岡山市立岡山後楽館高等学校 自己評価構築シート

(A:目標を上回った B:ほぼ目標どおり C:目標を下回った)

学校経営目標	具体的計画	達成基準	自己評価(中間)		自己評価(最終)		
			達成状況	評価	達成状況	評価	総合評価
確かな学力の育成と主体的なキャリア開発	マナプロと協力し「ユニット」をさらに活活化させ、子どもが輝く学びづくりプロジェクト最終年次の取組に当たる。また、指導計画や授業公開を通して授業改善を行い、論理的思考力や表現力の育成に向けた教員間の情報交換を行う。	生徒の授業評価アンケートの項目1～6について、肯定的な回答の割合の平均が80%以上となる。	クラッシー等の活用が進んでいるが、連絡だけではなく授業内での活用を推進していきたい。アンケートは11月の公開授業後の実施になるが、各教科に新教育課程の評価につながる授業改善・中間総括を行い、公開授業では教育機器の具体的な活用をしながら授業改善を行いたい。	B	クラッシー等の活用が進んでいる。連絡以外でも授業内での活用が進んでいる。各教科に新教育課程の評価につながる授業改善の取組を呼びかけ、公開授業では教育機器の具体的な活用をテーマにした。その結果、生徒向け授業アンケートの1、2について、肯定的な意見は無回答をのぞくと昨年度の85%から約5%増加した。来年度は新教育課程で新しい評価方法になることもあり教育機器を活用してさらなる授業改善を進めていきたい。	B	B
	定期考査や高校生のための学びの基礎診断などを通してPDC Aサイクルを確立させることで、指導と評価を一体化させ、授業中心の学習指導を行う。また、ICT機器の利用などにより、業務の効率化を目指し、業務の精選も同時に行う。	・11月に実施する授業評価アンケートの結果において、授業のわかりやすさに関する項目の肯定的な回答が80%以上となる。 ・教務課内の連絡を原則としてClassiで行う。ペーパーレスの職員会議を1回以上画策する。	会議のペーパーレス化・定期考査の監督割など新しい試みに取り組んでいる。今後も生徒の利益につながる改革を進めていきたい。	B	会議のペーパーレス化・定期考査の監督割など新しい試みに取り組むことができた。ある程度の仕事・印刷の省力化につながった。課題はあるが、その他来年度1年次生におけるクロームブックの全員購入にむけて環境を整備中である。生徒向け授業アンケートの「先生の説明や板書はわかりやすく、自分のためになる」の項目は無回答を除くと令和2年度は85%程度であったが今年度は95%を上回り、改善が見られた。	B	
豊かな心の育成と社会に貢献する人づくり	探究「岡山の未来」での探究的体験活動を通して、主体性・多様性・協働性を身につけさせる。	ループリックの自己評価が活動の前後で上がる生徒の割合が60%以上で、岡山後楽館に関するアンケートで「総合的な探究の時間などの学習を通して、岡山市が抱える課題を1つ以上言えますか。」の質問での肯定的な回答の割合が70%以上となる。	新型コロナの影響で今年度も様々な活動が制約されたり延期を余儀なくされているが、今後、1年次のフィールドワーク、2年次のゼミ研究で、地域へも実際に出向き、可能な範囲で活動を実施して体験を積ませたり、協働性を身につけさせたい。	B	ループリックは年度末に自己評価をするため、まだ結果はでていないが、岡山後楽館に関するアンケート(高校生)の「総合的な探究の時間などの学習を通して、岡山市が抱える課題を1つ以上言えますか。」の質問での肯定的な回答が75.4%で、昨年度の71.5%よりも増加し、効果が上がっている。課題としては、教員の負担が重くなっているため、講演会、活動を取捨選択し、より効果的な内容に改善する必要がある。	A	B
	社会から求められる高校生としての「社会のルールとマナー」を生徒に認知させ、規範意識の醸成を図る。	社会から求められる高校生としての「社会のルールとマナー」、規範意識が身につけている。	ルール・マナーは多くの生徒が向上しつつあるが、より意識を高められるよう、生徒への声かけなど教員同士の協力が今後とも必要である。	B	特別指導などの大きな指導が減少していることから、社会のルール・マナーに対する意識は向上してきているが、日常生活の中では、まだまだ指導が必要な場面が多い。生徒への声かけなど、教員間の協力が今後とも必要である。	B	
	心身両面での支援体制と危機管理体制を充実させ、生徒の心と体の成長と安全な学校生活を保障する。	心身両面での支援体制と危機管理体制を充実させ、生徒が安心して学校生活を送れている。	教育相談に関してはスクールカウンセラーや医療機関につなぐなど、必要な対応はできている。今後も生徒支援のための連携を引き続き行っていく。	B	スクールカウンセラーにつなげた相談が約50件、医療機関と連携した件数が4件と、必要に応じた対応ができた。不登校生徒への支援を充実させることを今後の課題としたい。	B	
6年一貫教育の充実	自己理解を深めて、多様な進路を自ら切り拓くキャリア教育を推進する。	岡山後楽館に関するアンケートで、進路LHR等の進路行事に関する質問事項や今未来手帳やリアルポートフォリオの活用についての質問事項での肯定的な回答の割合が60%以上となる。	4月～7月は、新型コロナの影響を受けたものどころかに講演会等を実施することができた。一方、9月以降も講演会の延期、バスツアーの中止等を余儀なくされているが、可能な範囲で活動を実施して進路意識を高めた。	B	岡山後楽館に関するアンケート(高校生)で、進路LHR等の進路行事に関する質問では肯定的な回答の割合が78.6%で昨年度の73.1%よりも増加した。一方、今未来手帳に関する質問では44.3%で、昨年度の46.1%よりも減少し、基準を下回った。来年度の課題は、Classiと併用しながら、今未来手帳、リアルポートフォリオを適切に指導する方法の研究である。	B	B
	交流校(柳韓工業高校、シルバークリク高校)との交流を継続させる。	令和3年度・岡山後楽館に関するアンケート(高・生徒用)、項目48についての肯定的な回答の割合が昨年以上となる。(昨年は37.1%)	アメリカへの海外研修が実現できなかったが、リモートでの交流は継続している。	B	新型コロナウイルス感染の影響が続く中、(岡山後楽館に関するアンケート・高校生)の項目48の37.1%は、健闘した数字と捉えている。引き続き、リモート交流を中心に継続したい。課題は、交流できる生徒をどう増やしていくかであり、解決に向けて今後も取り組んでいきたい。	B	
	建学の精神である「自主・自律」に加え、令和4年度から始まる新教育課程を広報し、生徒募集につなげる。	オープンスクール参加者が昨年並み、もしくはそれ以上。また、令和3年度・岡山後楽館に関するアンケート(高・生徒用)、項目18、36についての肯定的な回答の割合が昨年以上となる。(昨年度項目18は79.6%、項目36は73.4%)	オープンスクールでは、190名の参加を獲得することができた。広報活動が制限を受ける状況の中、有難い数字である。引き続き、広報活動の強化に取り組むたい。	A	評価基準項目にあげた項目(岡山後楽館に関するアンケート・高校生)では、項目18では、79.6%から86.0%と増加、項目36では、73.4%から77.6%と増加を得られた。課題としては、生徒募集につながるような効果的な広報活動での評価をあげることに力を入れたい。	A	